



ステップ30

# タイピング練習 ワークブック

Step 01	タイピングの基本	6	Step 08	記号キーの練習	37
	1.1 キーと指の対応			8.1 右手の小指で押す記号キー 《演習》	
	1.2 ホームポジションについて				
	1.3 タッチタイピングの利点 《演習》				
Step 02	タイピング練習の準備	11	Step 09	ローマ字入力の練習 - 1	39
	2.1 半角 / 全角モードの確認			9.1 全角入力モードの選択	
	2.2 大文字 / 小文字の確認			9.2 「あいうえお」の練習 《演習》	
	2.3 タイピング練習ツールの利用方法				
	2.4 「メモ帳」でタイピング練習を行う				
Step 03	中段の練習	17	Step 10	ローマ字入力の練習 - 2	42
	3.1 中段(右手)の練習 《演習》			10.1 「か行」「な行」「は行」「ま行」「や行」の練習 《演習》	
	3.2 中段(左手)の練習 《演習》				
Step 04	上段の練習	21	Step 11	ローマ字入力の練習 - 3	45
	4.1 上段(右手)の練習 《演習》			11.1 「さ行」「た行」「ら行」「わ行」の練習 《演習》	
	4.2 上段(左手)の練習 《演習》				
Step 05	下段の練習	25	Step 12	ローマ字入力の練習 - 4	47
	5.1 下段(右手)の練習 《演習》			12.1 濁音、半濁音の練習 《演習》	
	5.2 下段(左手)の練習 《演習》				
Step 06	アルファベットの入力練習	29	Step 13	ローマ字入力の練習 - 5	49
	6.1 アルファベットの重要性 《演習》			13.1 「ん」の練習	
				13.2 小さい「っ」の練習 《演習》	
Step 07	[スペース]キーと[Enter]キー	32	Step 14	ローマ字入力の練習 - 6	52
	7.1 [スペース]キーと[Enter]キーのタイピング			14.1 小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」の入力	
	7.2 問題表示だけのタイピング練習ツール 《演習》			14.2 小さい「ぁ」「ぃ」「ぅ」「ぇ」「ぉ」の入力	
				14.3 少し特殊なローマ字入力 《演習》	
			Step 15	日本語で使う記号の練習	56
				15.1 「ー」(長音)の入力	
				15.2 「、」「。」(句読点)の入力	
				15.3 かぎ括弧の入力 《演習》	

Step 16	漢字変換の練習 - 1	60
	16.1 漢字変換の手順 《演習》	
Step 17	漢字変換の練習 - 2	65
	17.1 文節の選択と漢字変換の修正 17.2 文節の区切りの変更 17.3 文節の変更を行わないために...	
Step 18	漢字変換の練習 - 3	69
	《演習》	
Step 19	数字キーの練習	72
	19.1 数字キーのタイピング方法 19.2 数字の変換 《演習》	
Step 20	テンキーの練習	76
	20.1 テンキーのホームポジション 20.2 各キーと指の対応 20.3 全角入力モードにおけるテンキー 《演習》	
Step 21	[ Shift ]キーの操作が必要な入力	80
	21.1 [ Shift ]キーの操作が必要な文字 21.2 [ Shift ]キーのタイピング方法 21.3 記号の変換 21.4 [ Shift ]キーを使ってアルファベットの大文字を入力する 《演習》	
Step 22	アルファベットが混じった文章	85
	22.1 全角と半角の切り替え 22.2 [ Caps Lock ]キーを利用する 22.3 [ Shift ]キーを利用する 《演習》	

Step 23	ファンクションキーの活用	88
	23.1 全角英数変換(F9)と半角英数変換(F10) 23.2 ひらがな変換(F6)とカタカナ変換(F7) 《演習》	
Step 24	文章入力の練習	92
	《演習》	
Step 25	矢印キーの活用	95
	25.1 [ 矢印 ]キーでカーソルを移動させる 25.2 [ Shift ]+[ 矢印 ]キーで文字を選択する	
Step 26	コピー&ペースト	97
	26.1 [ Ctrl ]+[ C ]と[ Ctrl ]+[ V ] 26.2 [ Ctrl ]+[ X ]	
Step 27	便利なショートカットキー	100
	27.1 ショートカットキーのタイピング方法 27.2 覚えておくと便利なショートカット	
Step 28	人名/地名の入力	102
	28.1 変換モードの変更 28.2 郵便番号を住所に変換する	
Step 29	辞書ツールの活用	104
	29.1 辞書に単語を登録する 29.2 省略入力の環境を整える	
Step 30	IMEパッドの活用	108
	30.1 画数や部首で漢字を入力する 30.2 マウスを使った手書きで漢字を入力する	

## タイピングの基本

タイピング技術を上達させる最大のコツは、タイピングの基本を十分に理解することです。自己流のタイピングでもある程度は入力速度を速くできますが、キーボードを見ないで入力する、いわゆるタッチタイピングを習得できないまま終わってしまうケースが多くあります。まずは、タイピングの基本から学習していきましょう。

### 1.1 キーと指の対応

タッチタイピングができない人は、そのほとんどがキーと指の対応がバラバラです。全てのキーを「人差し指」だけで押す、いわゆる“一本打ち打法”で頑張っている人も中にはいるでしょうし、そこまではいなくても、やたらと「人差し指」と「中指」が活躍する自己流タイピングをしている人が意外と多いようです。

このような状態は、練習次第である程度の入力速度を得られるものの、すぐに限界に達してしまいます。高速なタッチタイピングには到底およばない...、というのが実情でしょう。タッチタイピングを実践するには、その場限りで適当にキーを押してはいけません。キーボードを見なくても、どのキーがどの位置にあるかを直感的に把握している必要があります。そして、そのために必須となるのが「キーと指の対応」を覚えることです。

タイピングは左右10本の指を使って行うのが基本です。また、各キーを押す指はいつも同じでなければいけません。その対応を示したのが以下のイラストです（詳しくは、巻頭のカラー表示を参照）。このイラストに従うと、[A]キーを押すのは必ず「左手の小指」になります。同様に、[B]キーは「左手の人差し指」、[K]キーは「右手の中指」となります。このように「キーと指の対応」を決定することが、タッチタイピングを実現するための第一歩となります。

なお、以下のイラストには「親指」に対応するキーが省略されていますが、通常、親指は[スペース]キーを押す指となります。

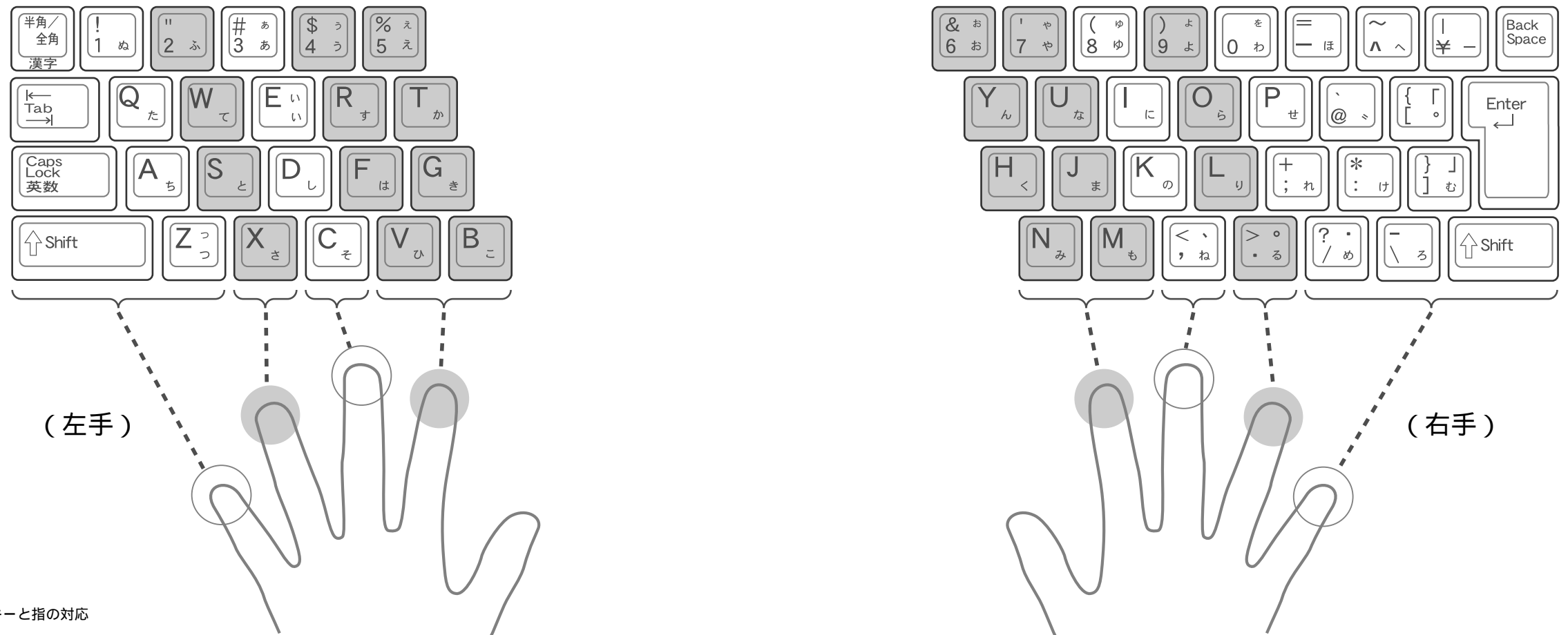


図1-1 キーと指の対応

## 1.2 ホームポジションについて

タッチタイピングを実現するにあたり、もうひとつ大切なことがあります。それはホームポジションの位置を覚えることです。ホームポジションにあたるキーは、[A][S][D][F]キーと[J][K][L][;]キーの8つであり、これらのキーの上に「人差し指」から「小指」の8本を自然に乗せるのがタイピングの基本姿勢となります。

実際にタッチタイピングを行う際は、このホームポジションを基点とし、各キーの位置を相対的に把握することでキーボードを見ないタイピングを実現します。たとえば、[J]キーを押す場合は、そのまま「右手の人差し指」を押します。[U]キーの場合は「右手の人差し指」を少し左上にずらして押し、[X]キーの場合は「左手の薬指」を少し右下にずらして押し、という具合です。

このように、それぞれの指はホームポジションの位置から“左上”または“右下”の方向に動かすのが基本となります。そして、キーを押したあとは必ずホームポジションの位置に指を戻すことも重要なポイントとなります。あとは、各キーの位置関係をできるだけ早く覚えてしまうこと。キーボードとにらめっこしながらキー配列を丸暗記するのではなく、実際に練習しながら自然にキーの位置と指の対応を覚えていくとよいでしょう（後のステップでこの練習を行います）。

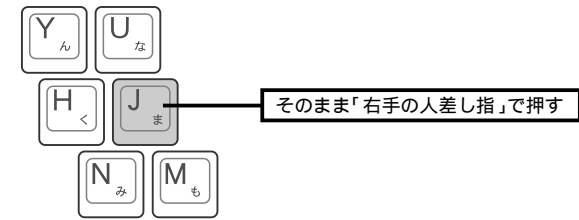


図1-3 [J]キーを押す場合  
そのまま「右手の人差し指」で押す。

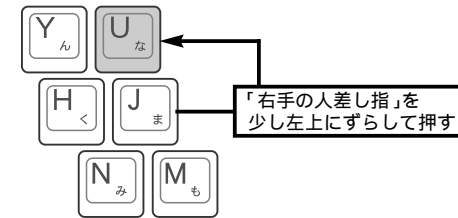


図1-4 [U]キーを押す場合  
「右手の人差し指」を少し左上にずらしてキーを押し、その後[J]キー（ホームポジション）の位置に指を戻す。

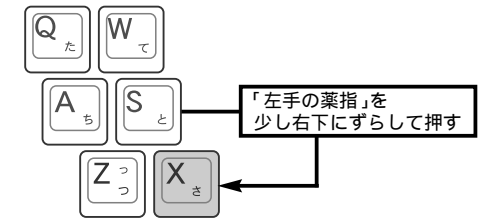


図1-5 [X]キーを押す場合  
「左手の薬指」を少し右下にずらしてキーを押し、その後[S]キー（ホームポジション）の位置に指を戻す。

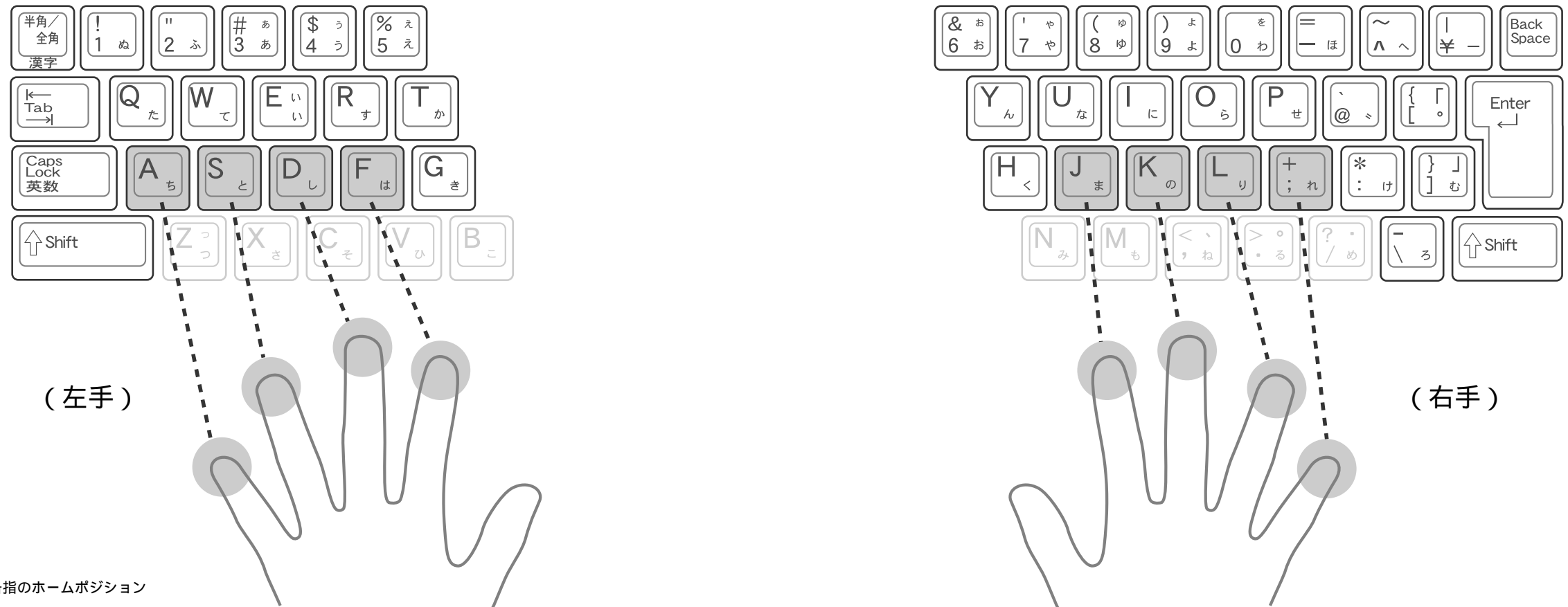


図1-2 各指のホームポジション

# Step 02

## タイピング練習の準備

ステップ01では、パソコンの電源をOFFにした状態でホームポジションの練習を行いました。しかし、これでは面白みに欠けます。そこで、タイピング練習ツールを用意しました。このステップでは、タイピング練習ツールの基本的な利用手順、ならびに「メモ帳」でタイピング練習を行う手順を解説します。

### 1.3 タッチタイピングの利点

タッチタイピングを習得する最大の目的はキー入力を速くすることです。しかし、それ以外にもタッチタイピングの利点はいくつかあります。

その1つ目は、パソコンに向かう姿勢が良くなることです。タッチタイピングを行うには、常にホームポジションに指を置き、スムーズに指を動かさなければいけません。そして、これを実践するための必要条件となるのが“姿勢を正す”ことなのです。むしろ、タッチタイピングを行っている、自然に背筋が伸びて正しい姿勢になる、という方が適切かもしれません。

2つ目の利点は目が疲れにくくなることです。タッチタイピングができない人は、画面とキーボードの両方を交互に見なければいけないため、どうしても目の動きが大きくなり、目のピント調整も頻繁になります。つまり、それだけ目の筋肉を酷使しているのです。一方、タッチタイピングは、画面（モニタ）だけを見て作業を進められるため、視線の動きは小さくなり、そのぶんだけ目が疲れにくくなると期待できます。

### 演習

それでは、実際にタイピングの基本を練習してみましょう。ここでは、ホームポジションの位置と、おおまかな指の動きを把握します。なお、現時点ではパソコンの電源を入れる必要はありません。誤動作を防ぐためにも電源OFFの状態での擬似的なキー入力を行うようにしてください。

(1) ホームポジションの位置に指を置き、各キーを以下の順番で押してみましょう。

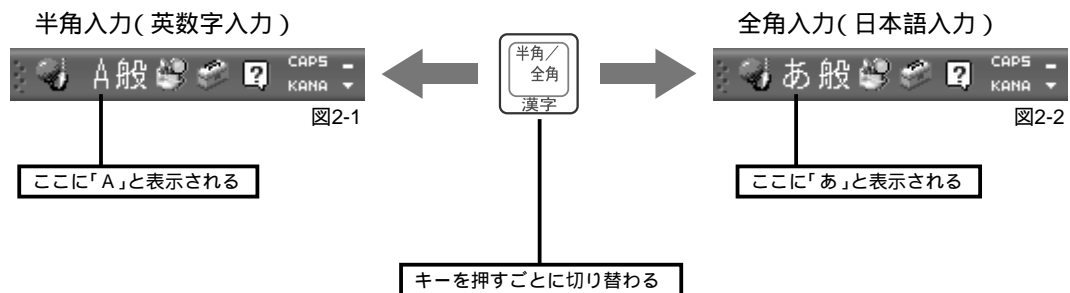


(2) ホームポジションの位置から以下のキーを押してみましょう。キーを押したあとは、必ず指を元の位置（ホームポジション）に戻します。



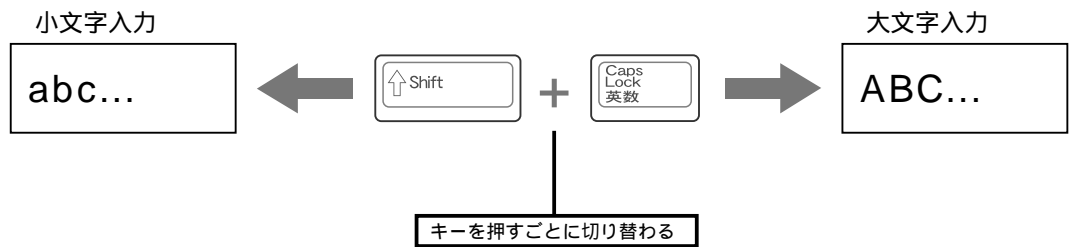
### 2.1 半角/全角モードの確認

タイピング練習を行うときは、はじめに入力モードを確認しておく必要があります。入力モードの切り替えは[半角/全角]キーで行います。現在の入力モードは、画面右下にある言語バーを見ると確認できます。



### 2.2 大文字/小文字の確認

アルファベットを入力する際は、大文字/小文字の入力モードにも注意する必要があります。通常、Windowsではアルファベットが小文字で入力されますが、[Shift]キーを押しながら[ Caps Lock ]キーを押すと、これを大文字入力に変更できます。再度[Shift] + [Caps Lock]キーを押すと、元の小文字入力に戻ります。



## 2.3 タイピング練習ツールの利用方法

本書では、インターネット上に用意したタイピング練習ツールを使ってタイピングの練習を行います。このツールの基本的な利用手順は、以下のとおりです。



図2-3

1  
[スタート]メニューから[インターネット]を選択します。



図2-4

2  
「Internet Explorer」が起動するので、アドレス欄に「http://www.cutt.co.jp/books/4-87783-819-8.html」と入力し、[Enter]キーを押します。

### ワンポイント

#### 「お気に入り」の活用

そのつどURLを入力してメニュー画面を表示させるのは面倒なので、この時点で[お気に入り]-[お気に入りに追加]を選択し、「タイピング練習ツール」を「お気に入り」に登録しておくといよいでしょう。次回以降は、[お気に入り]メニューから[タイピング練習ツール]を選択するだけで、メニュー画面を呼び出せます。

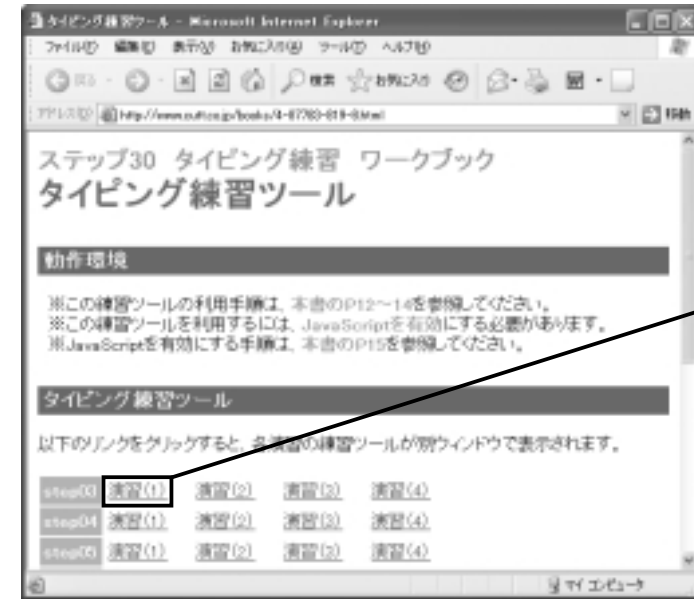


図2-5

3  
タイピング練習ツールのメニュー画面が表示されます。この画面で練習する演習問題をクリックすると、タイピング練習ツールを起動できます。

クリック



図2-6

4  
新しいウィンドウが開き、タイピング練習ツール表示されます。まずは、問題が表示される間隔を選択します。最初は表示間隔を長めに設定し、慣れてきたら次第に表示間隔を短くしていくといよいでしょう。

表示間隔を選択



図2-7

5  
[スタート]ボタンを押すと「3、2、1」とカウントダウンが表示されるので、この間に指をホームポジションに置きます。続いて、タイピング練習の問題が表示され、カーソルが解答欄に移動します。

問題

ここにカーソルが移動する

あとは、問題のとおりキー入力を行うだけです。手順4で選択した秒数が経つと、「正解」または「×間違い」と表示されます。

正しく入力できた場合



図2-8(a)

図2-8(b)

間違って入力した場合

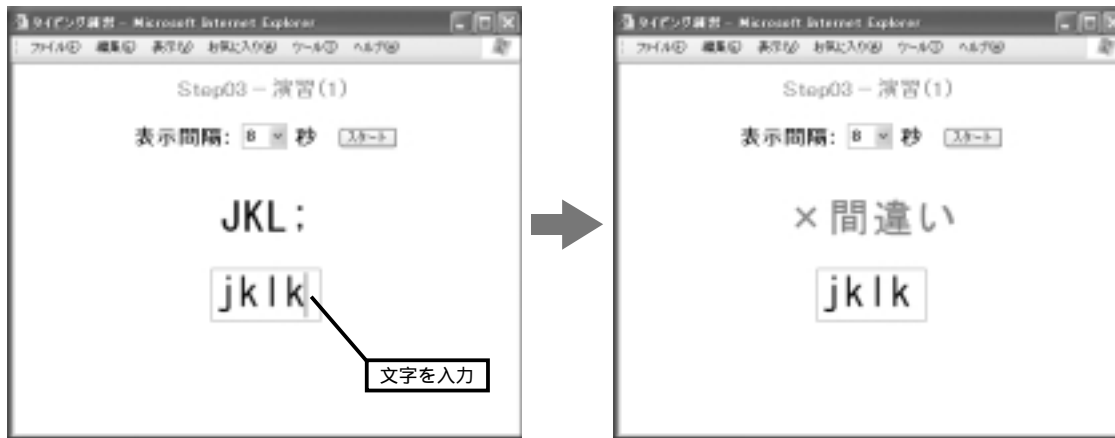


図2-8(c)

図2-8(d)

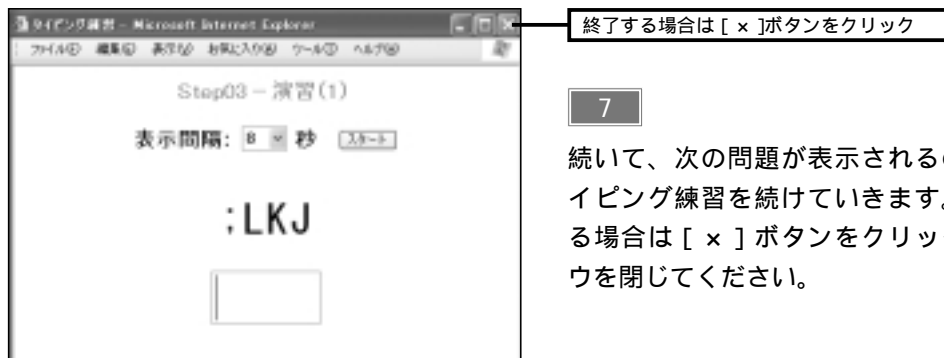


図2-9

7

続いて、次の問題が表示されるので、同様にタイピング練習を続けていきます。練習を終了する場合は [ x ] ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

## ワンポイント

### JavaScriptの設定

タイピング練習ツールを利用するには、「Internet Explorer」でJavaScriptの設定を有効にしておく必要があります。JavaScriptが無効になっている場合は、以下のように操作するとJavaScriptを有効にできます。

- 「Internet Explorer」で [ ツール ]
- [ インターネット オプション ] を選択します。
- [ セキュリティ ] タブをクリックします。
- セキュリティのレベルに「中」を選択します。
- [ OK ] ボタンをクリックします。

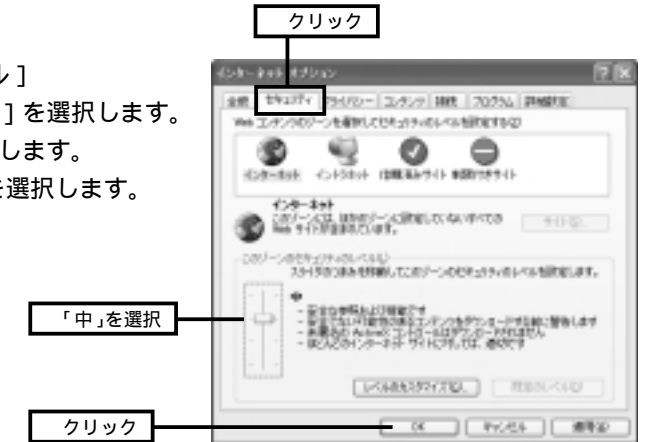


図2-10

## 2.4 「メモ帳」でタイピング練習を行う

インターネットに接続できない場合や実践的なタイピング練習を行う場合は、Windowsに付属する「メモ帳」を使って練習を進めていきます。「メモ帳」でタイピング練習を行う場合は、以下のように操作します。



図2-11

1

[ スタート ] メニューから [ すべてのプログラム ] [ アクセサリ ] [ メモ帳 ] を選択します。

これを選択



# Step 03

## 中段の練習

それでは、さっそくタイピングの練習を行っていきましょう。最初は、中段のタイピング練習から始めます。ここでいう“中段”とは、ホームポジションと同じ横並びにあるキーのことです。これらのキーは指を動かすことも少ないため、わりと簡単にタッチタイピングを習得できると思います。

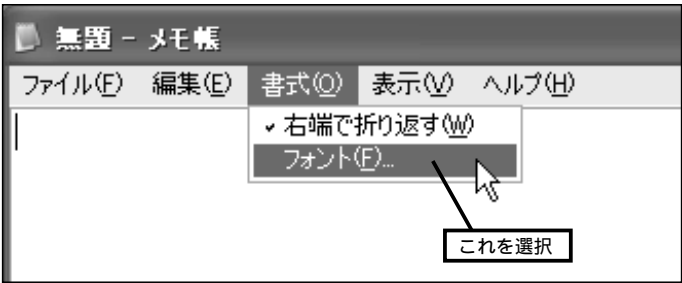


図2-12

2

「メモ帳」が起動します。初期設定のままでは文字が小さくて見にくいので、[書式]-[フォント]を選択し、文字の書式を変更しておきましょう。



図2-13

3

[フォント名]に「MS Gothic」を選択し、[サイズ]に適切な大きさを指定します。続いて、[OK]ボタンをクリックします。

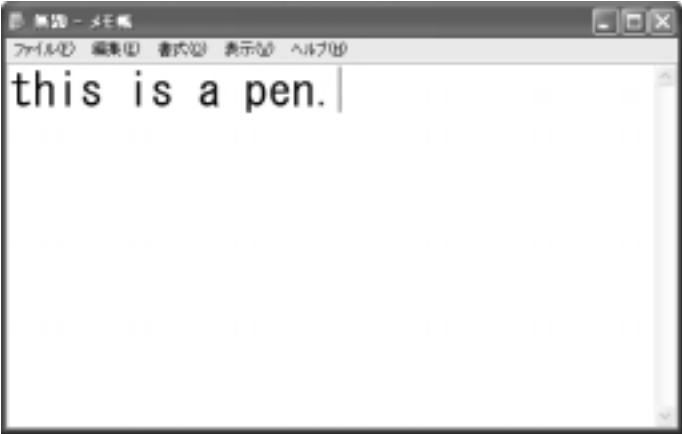


図2-14

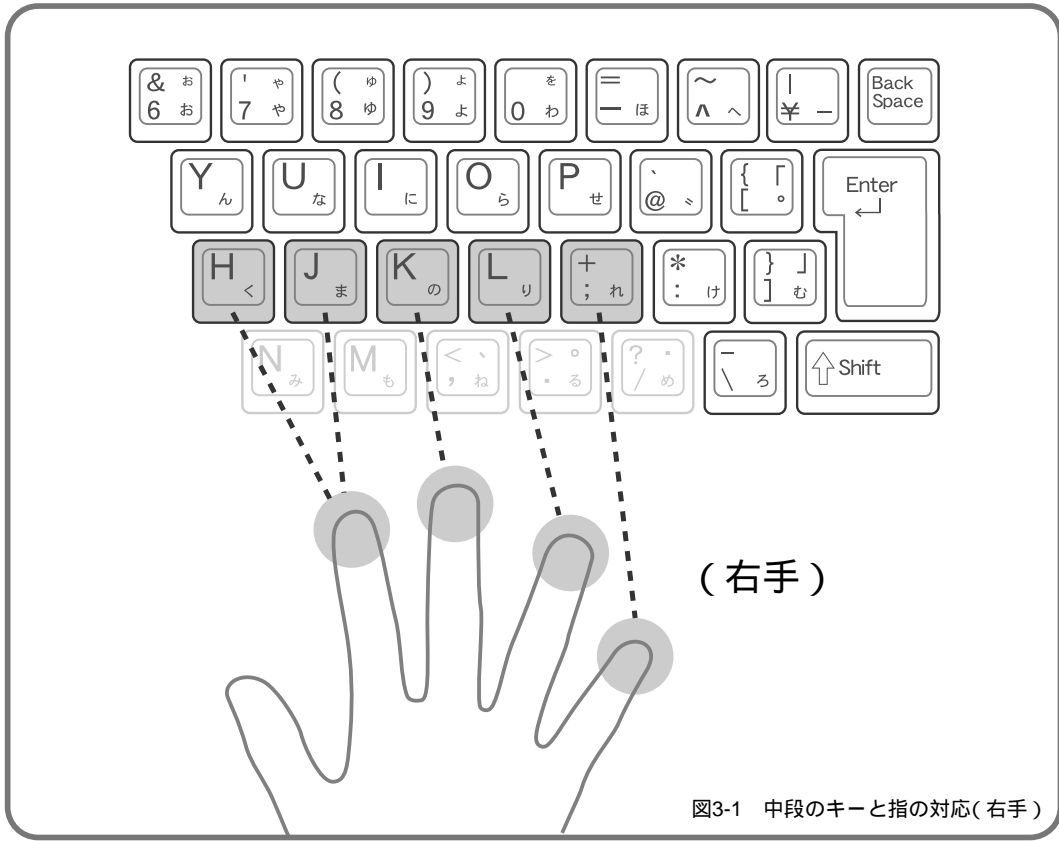
4

これで文字の書式を変更できました。あとは、実際にキーを押してタイピングの練習を行ってください。

### 3.1 中段(右手)の練習

まずは、右手が担当するキーを練習します。各指とキーの対応は図3-1のとおりで、「人差し指」だけが[J]と[H]の2つのキーを担当することになります。[J][K][L][;]キーの4つは、ホームポジションの位置からそのままキーを押して入力します。[H]キーを入力する場合は、「人差し指」を少し左にずらしてキーを押し、その後「人差し指」を[J]キーの位置(ホームポジション)に戻すようにしてください。

なお、実際には[:]や[']キーも中段のキーになりますが、これらは少し難易度が高いため、もう少し慣れてから練習を行うことにします。



(右手)

図3-1 中段のキーと指の対応(右手)